

氏 名 : 齋藤 祐一

専攻分野の名称 : 博士（教育学）

学 位 記 番 号 : 博甲第361号

学位授与年月日 : 令和3年3月16日

学位授与の要件 : 学位規則第4条第1項該当 課程博士

学 位 論 文 名 : 学校体育における長い距離を走る運動の学習内容に関する研究

論文審査委員 : (主査) 教授 松田 恵示
 (副査) 教授 鈴木 明哲 教授 奥住 秀之
 教授 首藤 敏元 教授 朝倉 隆司
 教授 伊藤 信之

学 位 論 文 要 旨

本研究では、学校体育における長い距離を走る運動の学習内容について新たに検討することを目的とした。そこで、学習指導要領や「運動の特性論」による従来の分類ではなく、長い距離を走る運動に関わる人々、とりわけ、教員や学習者、そして、その魅力を知っている者の姿から学習内容を検討することとした。本研究の目的に迫るためには、認識や魅力といった概念を説明する必要があったため、質的研究法による探索的戦略を採用した。その結果、以下の知見が得られた。

第1章では中学校保健体育科教員の持久走および長距離走の認識形成プロセスを明らかにした。中学校保健体育科教員は、一般的な知識として持久走と長距離走は明確に区別できていた。しかし、授業づくりの段階で学習内容や学習形態を検討していく中で、過去の自らの運動経験を基盤として、授業外のカリキュラムに影響を受けながら、「持久走」と「長距離走」の概念は統合され、「長い距離を走る活動」として概念化されていくことが明らかとなった。すなわち、知識として有している持久走と長距離走の違いを、授業づくりという行為を通して曖昧にし、ついには「長い距離を走る活動」という同様のものとして認識が形成されていることが見出された。これまで持久走や長距離走が混同されていると考えられていたが、教員は知識としてはこれらを明瞭に識別していた。むしろ、この混同は、学習内容等の検討や子どもたちへの評価活動による授業づくりのプロセスの深まりと共に、促進されていることが明らかとなった。さらに、中学校保健体育科教員が「持久走」および「長距離走」の認識を形成していくプロセスには、彼らにとって＜言語化しづらい学習内容＞が位置づいており、学習内容を構成する要素として、生徒たちの感覚や認識に働きかけることや、他者と意思疎通可能であり、個人だけでは気づきにくい（気づけない）ことが含まれていることが示唆された。

第2章では一般市民ランナーを対象としてランニングの魅力を明らかにし、その形成プロセスから持久走の魅力を見出した。ランニングは個人的な運動とイメージされがちだが、一般市民ランナーは他者と関わることを通して、ランニングの魅力を強く感じるようになっていくプロセスが見出された。そして、そのランニングの魅力から見た持久走の魅力は、一般市民ランナ

一が＜場との対話＞を通して＜ランニングする自己の確立＞をしていくプロセスに相当することが示唆された。このように持久走の魅力を捉えることによって、学習者は持久走と関わる自分の姿を浮き彫りにすることができる。換言すれば、他者と関わるからこそ、持久走に対して自ら意味を与えられるのである。そこでは、他者は単なる競争相手ではなく、自分を知るための媒介にも成り得る。ゆえに、集団の中で持久走と関わる自分を知ることが学習内容として位置づけられ、それを前提とした持久走の学習の在り方を検討する余地が残されており、個人的な運動から、集団的な運動へ捉え直す必要性が示唆された。

第3章では、第1章で導き出された学習内容の構成要素と、第2章で明らかになったランニングの魅力から長い距離を走る運動の魅力を仮定し、集団性のある持久走の授業実践を展開した。授業を通して生徒たちは、自分を知る媒介として他者を捉えていくようになった。そこでは、自己・他者・モノとの言語的／非言語的なコミュニケーションが持久走への参加を促進し、それに随伴するように生徒たちの認識対象や身体感覚が拡張された。また、集団性のある持久走では、学習形態としての集団性よりも「他者を媒介として自己を知ることができたか」という評価の観点の明確化が優先されることが見出され、他者と走るからこそ得られる気づきが生じる場面を設えることによって、子どもたちの欲求充足と必要充足に働きかける授業が成立することが示唆された。

以上より、学校体育における長い距離を走る運動の学習内容は、他者と走るからこそ得られる自分自身の状態や環境への気づきであると結論づけられるとともに、学習指導要領に依拠した持久走と長距離走の区分を超えた教育内容のまとまりを提示するに至ったと言える。本研究の成果は、体育科教育学における「運動の特性論」をめぐる新しい研究の可能性を開くものであると思われる。「運動の特性論」においては、まずは学習者の主体性を個人の側から捉えようとしていることに対して、本研究が開いた研究視点は、長い距離を走る運動に見られる「他者」との関係性の観点、つまり、長い距離を走る運動が持つ原初的な教育価値に関するパースペクティブであった。